

『緊急入院患者における副作用判定率を
指標とした薬剤師介入の有用性評価』
に関するご協力のお願い

研究の目的と意義	薬による副作用は、体調悪化や入院の原因となることがあります。本研究では、救急外来を受診し入院となった患者さんを対象に、薬剤師の早期介入が薬による副作用の早期発見に役立つかを明らかにすることを目的として研究を行っています。
研究の方法	この調査では、担当者が対象となる方のカルテ（診療記録）から、入院時の症状や病気の経過、服用されていたお薬の情報、薬による副作用の有無などの記録を収集し、集計させていただきます。
対象者	西暦2023年1月1日～2023年3月31日の間に、緊急入院で一般病棟に入院をされた方を対象
利用する試料/情報	情報：診断名、年齢、性別、服用薬剤
利用する試料/情報の取得方法	診療録
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 三角 隆彦 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	当院単独研究
試料/情報の院外提供	該当なし
結果公表	日本医療薬学会で発表予定
試料・情報の利用又は提供開始日	院長による研究実施許可日
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2026年10月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 薬剤部 薬剤師 工藤夕加
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 薬剤部/工藤夕加